

学習指導と評価の充実に向けた学校全体の取組

黒松内町立黒松内小学校 学級数 8 (校長 澤 本 昌 宏)

I 実践の趣旨

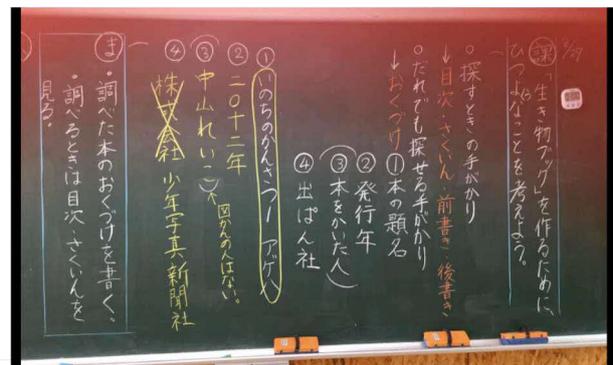
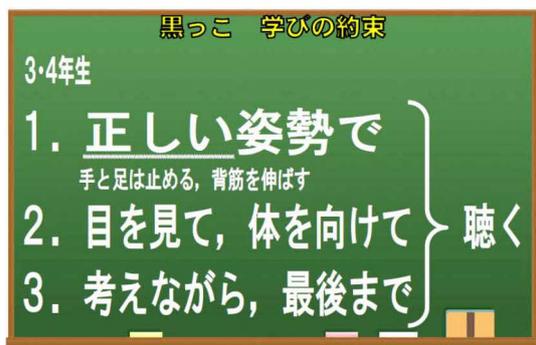
本校においては、学習指導要領に示された、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を育成するため、「主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善」について、学校全体で取り組み始めた。具体的には、「学習規律の徹底」「課題解決型の授業展開の統一」「学習評価の充実」などで、実践事例を蓄積して共有することを中心に研修を進めることとした。

II 実践の概要

1 学習規律の徹底と課題解決型の授業展開の統一

まず、資質・能力を育成する基盤となる力として、学習規律の徹底にかかわり、「黒っこ 学びの約束」を低・中・高ごとに作成し、徹底を図った。

また、授業展開についても、「課題→自力解決→交流→まとめ→振り返り」の課題解決型の展開で統一し、必要な知識・技能はもとより、考える力、伝え合う力などを高めるよう、努めた。



2 学習評価の充実

国語科における指導と評価の計画を全学年分作成し、その計画をもとに評価を行うことについて校内研修で共通理解を図った。

この中で、評価規準に基づいて一人一人を見取ること、努力を要すると判断される子どもへの手立てを考えて授業にのぞむこと、主体的に学習に取り組む態度の観点の評価は、授業の最後の振り返りの記述を生かすこととし、子どもの振り返りから、指導の良い点と課題を見出し、授業改善に生かすことも確認した。

評価を評価のためではなく、子ども一人一人に力を付ける、授業をよりよくしていくことにつながる意識を高くもつことができるようになった。

月	単元・教材	観点別評価規準	評価項目	評価方法
			知・技・経・読・書く・読む・書く	児童氏名
6月	三つまたねくめ おぼえをつかもう			
7月	うめぼしの はたらくき	◎【知技】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。 (【知識及び技能】(1)カ)	◎	観察・ノート
		◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。 (【知識及び技能】(2)ア)	◎	パフォーマンス 評価
		◎【思判表】「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。 (【思考力、判断力、表現力等】(2)ア)	◎	パフォーマンス 評価
		◎【思判表】「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約している。 (【思考力、判断力、表現力等】(2)カ)	◎	パフォーマンス 評価
		◎【読書】粘り強く、目的を意識して、中心となる語や文を見付け、学習課題に沿って要点をまとめようとしている。	◎	パフォーマンス 評価

III 実践の成果 (○) と課題 (●)

- 児童アンケートの中で、「自分の良さを感じ、仲間から認められる学校生活を送っているか」について肯定的な回答の割合が高くなっていることから、授業における「課題→自力解決→交流→まとめ→振り返り」により、自分の考えをもち、互いに認め合う交流、そのまとめと振り返りが効果的であることが分かった。
- 授業の最後の振り返りから授業を見直すことにより、分かりやすい発問や思考の足跡が見える板書などを意識するようになり、教師の指導力の向上につながった。
- 子ども同士が互いのよさを認め、カードに書いて掲示する「すてきな木」の取組により、子ども同士の協力的な学習ができることにつながっている。
- 学習活動の評価に関する実践事例の蓄積は不十分であることや、授業改善について、項目によってアンケート結果も低く、不十分であることから、「温かい学校づくり」を基盤として、落ち着いた学級をつくること、互いの指導のよさを共有するとともに、積極的に外部講師を招聘するなどして、指導力を高め合っていく必要がある。